

管轄面積が入間市の9倍に

消防広域合併は認められない

9月議会には条例、補正予算、20年度決算認定など36議案が提出され、決算認定を除く、すべての議案が可決されました。

財政効率化がねらい 消防力強化にならず

今議会では、36議案のうち、12月議会で採決が行われる平成20年度決算認定を除くすべての議案の審議、採決が行われました。日本共産党は平成21年度一般会計補正予算に反対、その他の議案については賛成しました。

一般会計補正予算に「消防広域化」を行うための負担金が計上されました。この消防広域化は国、県の主導で進められており、入間市、所沢市、狭山市、飯能市、日高市の5市の消防本部を一つに集

約化するいつものものです。

消防職員が全体的に不足しているなかで、広域化を行っても消防力の強化にはなりません。さらに管轄面積は今の9倍以上に広がります。

日本共産党は、「この広域化は国が財政効率化を狙ったもので、消防力強化にはならない。住民への説明や合意も得られていない消防広域化には賛成できない」として、一般会計補正予算に反対。しかし、共産党以外の会派がすべて賛成し、可決されました。

自衛隊病院建設の 計画が具体化へ

9月15日、党市議団は塩川てつや衆議院議員とともに防衛省から次のような説明を受けました。「自衛隊病院等在り方検討委員会」が8月に報告書をまとめました。現在の16病院を10病院に集約し、質の高い医療の提供を可能にするとしています。集約化の中で唯一新設されるのは、関東地区の飛行場隣接地で、入間基地が候補地として濃厚です。

「留保地ではなく基地内」との質問に、「候補地であるがまだ決定していない。いつかは答えられないが、そう遠く

ない時期」と答弁しました。党市議団は早い時期に地元の説明を行うよう要請しました。



建設的野党として奮闘します

総選挙では、国民を苦しめ続けた自公政権が退場するという歴史的に大変意義のある結果になりました。日本共産党は大きな意義のある9議席を確保。新しく誕生した民主党中心の政権に対して、是非々の立場を貫く建設的野党として全力を尽くします。

後期高齢者医療制度、障害者自立支援法の廃止、生活保護の母子加算の復活、ハッパダムの建設中止などには、積極的に新政権に協力します。消費税増税、憲法の改悪、日米FTAの締結など、国民の利益に反する政策にはストップをかけ、「国民こそ主人公」の立場を貫きます。

出産育児一時金が増額に

21年10月から23年3月の間に限り4万円アップ

条例では、国民健康保険条例の一部改正によって、国民の出産育児一時金の額が、21年10月から23年3月までの間に限り、これまでの35万円から39万円に引き上げることになりました。

また、運動公園のテニスコート使用料を、これまでの1時間150円から300円に引き上げる条例改正も行われました。

その他、一般廃棄物の処分を民間業者にも認可し、認可に係わる手数料を値上げする条例改正も行われました。

新しい政権に対して是非々の立場でのぞむ

10月から「子ども医療費無料制度」スタート

「お金の心配をせず安心して医療を受けたい」という、お母さん方の願いから6000筆を超える署名が2007年12月市議会に提出され、「子ども医療費無料制度」の拡充を求める請願が、全会一致で採択されました。

新日本婦人の会をはじめとする多くの市民の運動が実り、10月からいよいよ「子ども医療費無料制度」がスタートします。

医療費の窓口支払いは廃止に

これまで病院などの窓口でいったん支払っていた医療費の支払いはなくなります。お子さんの急な発熱などでも、財布の中身を気にせず安心して病院に駆け込めます。

小学3年生まで医療費無料化拡大

医療費無料化については、入院は平成22年4月から小学3年生まで拡大されます。

通院は、平成22年4月に小学1年生まで、平成23年4月に小学2年生、平成24年4月に小学3年生まで無料化されることとなります。

中学3年生まで無料化拡大に全力

子どもの病気は、子育ての大きな不安の一つです。子ども医療費無料制度は、経済的援助のみならず、育児への心理的支援として大きな役割を果たしています。入間市では、やっと一歩踏み出したところです。引き続き、日本共産党市議団は、みなさんと一緒に中学3年生まで無料化拡大に全力を尽くします。

日本共産党市議会報告

発行/日本共産党入間市議会議員団
2009年10月 連絡先/電話2932-4415 Fax2932-5632

- 石田よしお Tel 2964-4048 携帯070(5086)2075
- 安道よし子 Tel 2962-8082 携帯090(4811)0553
- 吉沢かつら Tel 2964-0208 携帯090(3514)3077
- 小出わたる Tel 2932-7884 携帯090(6542)3883

仕事と雇用の確保で

地域経済の活性化を

吉沢 かつら 議員



大企業の業績は回復したものの、中小零細企業の経営や国民生活は依然厳しいままです。この大不況から市民生活を守るためには、地域経済の活性化が必要です。

住宅耐震改修工事の助成を

耐震改修促進計画で、住宅の耐震化を27年度までに現状の80%から90%に引き上げることにしています。

しかし、高齢化や不況の影響で耐震改修は進まず、行政の財政支援が

の復活や小規模修繕工事登録制度の改善など、建設業者の仕事確保について質問しました。

市でも積極的な雇用対策を

完全失業率、有効求人倍率とも過去最悪で、雇用悪化は深刻に。自民・公明政権が抜本的な雇用対策を急った結果です。

吉沢議員は「市でも何らかの雇用対策を」と求めました。しかし市長は、「市も人員削減しているなかで臨時雇用は難しい」と消極的な答弁。他の自治体では、財政が厳しいなかでも職員の臨時採用を行うなどの雇用対策を行っています。入間市も積極的な雇用対策を行うべきです。



仕事確保にむけた取り組み

この他、住宅リフォーム助成制度

安心して医療を受けられるよう対策を

安道 よし子 議員



昨年、秋以降の急激な経済不況により、国保税や医療費を払いたくても払えない世帯が増加しています。

国保税の減免制度の拡充を

国保には、納付することが困難な場合、国保税を減免する制度があります。入間市では減免の決定件数が、この3年間でわずか1件です。

安道議員は、「失業や倒産などで経済的に苦しい国保世帯を減免の対象にすべき」と

市長に質しました。市長は、「払えない人がいることは理解している。まず相談に来てもらいたい。該当すれば適用していく」と答えました。

「子ども医療費無料制度」がスタートします。いよいよ医療費の窓口払いがなくなり、医療費の無料化は平成22年4月から開始。安道議員は子育て支援として、更なる年齢拡大を求めました。

市長に質しました。市長は、「直ちに国保証を交付すべき」と質すと、市長は、「一般被保険者として、医療を受けるられるよう特別な配慮を行う。また、医師会の協力を得て実施すること」を約束しました。

「子ども医療費無料制度」がスタートします。いよいよ医療費の窓口払いがなくなり、医療費の無料化は平成22年4月から開始。安道議員は子育て支援として、更なる年齢拡大を求めました。

新型インフルエENZA対策を

新型インフルエENZAが猛威をふるっています。保険証がなければ全額自己負担となるため医療機関にかかれません。入間市で



コストコ2回汚染排水 3度目は営業停止検討

石田 よしお 議員



湧き水の不老川は、蛍が飛び、水車が回っていたが、昭和50年代後半には「日本一汚れた河川」に。

清流化に逆行

不老川を元の清流に戻す市民の努力と下水道の普及により、最近では小学生が川に入り生物調査学習ができるまでに回復。

コストコはこの市民の努力に逆行し、オープン後15ヶ月間に2回も排水汚染事故を起こした。石田議員は、事故概要と3度目の事

基本方針を質問。市長は「昨年10月にスプリング遊具119ヶ所を緊急点検し、52ヶ所のサビやヒビを修繕した。使用期間を過ぎたものも延命を図る」と答弁。

選挙結果は政治変える審判

総選挙の結果は自民・公明政権に厳しい審判が下されました。石田議員は、「国民の暮らしを破壊してきた自民党政治を変えたい」と選挙結果であり、前向きな「一歩」と考えるが、どう受け止めたのかと質問。

市内には157の公園などに511の遊具が設置されていますが、その18%、94の遊具は、30年以上前に設置されたものです。石田議員は、老朽化への今後の

遊具の点検を

市長は「度重なる総理大臣の交代などが敗因の原因、今後の動向を見定める」と、国民の審判を厳粛に受け止められない答弁をしました。

市民の願い実現めざして

9月定例議会における日本共産党議員の一般質問

入間市の老々介護の状況と対策

小出 わたる 議員



現在、高齢者福祉は、医療福祉のなかでも特に大変な状況にあります。

繰り返される悲惨な事故

介護保険の相次ぐ改悪、また、お年寄りを差別する世界に例のない後期高齢者医療によって、高齢者の方

はひどく苦しめられています。こうしたなかで老々介護という言葉が使われるようになりま

した。この老々介護のもとで追い詰められた介護者が悲惨

市は状況の把握を

小出議員は、入間市での老々介護の状況を、市はどのように把握しているのか質問しました。

市長は、高齢者のみで6873世帯と答えました。

小出議員は、ある世帯から聞いた例を挙げながら、もう少し詳しく市の側が把握すべきではないかと質問しました。

市長は「プライバシーの問題もあり、簡単にはいえない」と答えるに

とごまりました。

入間市独自のサービスで寝具乾燥事業、配食サービス等の利用が大変少ないことを指摘し、もっと周知していく必要があるのではないかと質問しました。「周知には努力している。今後さらなる努力していく」と答えました。

八津池の水をきれいに

小谷田の八津池公園は、付近の住民から「池の水をきれいにしてほしい」という声が出ています。水質の改善を市として研究しているのか質すと、環境経済部長は「すぐには対応できないが、今後は水質浄化の研究をする」と前向きに答えました。

